

佳作賞

「マリオ」

「風立つ日々（マリオ
2）」

「法螺」73・74号

高山順子氏

高山順子（たかやま・じゅんこ）

一九三六年六月八日生まれ。大阪府枚方市在住。

一九五七年武庫川女子短期大学卒業。以降一九九二年大阪
市立旭陽中学校を退職するまで大阪市立学校教員を務
める。

一九五九年武庫川女子大学卒業。

一九九五年関西外国語短期大学卒業。同年枚方文学の会
の会員となる。同時に同人誌「法螺」の同人になる。

一九九七年中国の東北育才学校の日本語教師として派遣
される。

「マリオ」

小学校六年生のマリオは母の化粧箱からファンデーションを出し顔に塗った。夜中に来た母がマリオの頬に涙を落した。

翌朝校門で待つてくれていた加奈ちゃんが、

「マリオ、顔洗つといいで。そのままやと皆寄ってけえへん
かもしれん」

加奈ちゃんの言葉にマリオは慌てて水道場に行った。

五年生の時、誰かが隠れて持つて来たゲーム器に男子が
集まっていた。マリオが見に行ったら餓鬼大将の大野が突
飛ばした。倒れたマリオを子分が囲み、

「お前は誰の子や」

「なんでここにおるねん。国へ帰れ」

とわめく。大野は、

「黒ん坊、お前は消える。死ね」

と叫び、マリオのおでこにゲーム器を投げつけた。子分
たちは一斉に「死ね、死ね」を合唱する。

おでこから血を出して倒れていたマリオの血を、教室に
帰って来た加奈ちゃんが拭いてくれた。

六年生になったある土曜日、父が、
「中学生になったら何のクラブに入りたいんや」
と聞いたので、マリオが、

「サッカー」

と答えるとサッカーボールを買ってくれた。

父の顔で強豪チームのメンバーになったマリオは、めき
めきと力をつけ、実績をあげていった。年明けには対外試
合にも出られるようになった。

バレンタインデーの前日、加奈ちゃんの愛猫の形のチョコ
コレートを作り、加奈ちゃんの家のポストに入れた。そし
て愛する母へは自分の顔の、信頼する父にはサッカーボー
ルのチョココレートを作った。

「風立つ日々（マリオ2）」

中学生マリオはサッカー部員になっていた。

ある日、下駄箱に自分の靴がなくなっていた。大野が水
道場で靴に水を入れていたと友人が教えてくれた。素足で
跳んで行くと、ずぶ濡れの靴があった。そのまま履いて走
った。遅刻したので当然ながら罰走。でも十四人のグラン
ド整備は一年生の仲間が助けてくれた。

一週間後の音楽の時間先生と「コンドルは飛んで行く」
を踊った。クラスメイトが大きな拍手を送ってくれた。

帰り道の渡り廊下で、誰かに突飛ばされ、鉄柱の角にお
でこをぶつけた。倒れたマリオを二人で殴ってくる。大野
と子分だ。チャイムが鳴り、二人は教室に走った。おでこ
が痛くてたまらない。痛みを堪え教室に向かった。

「中野君どうしたの。誰がやったの」

先生は聞くが、声が出ない。先生は生徒指導の先生を呼
んでくれた。その先生の優しさに、今迄のすべてを話せた。
話の後、先生は保健室に連れて行ってくれた。

「いじめられたら、保健の先生に生指に連絡してほしいと
言うたらええ」

と言い残して先生は保健室を出た。

昼休み、加奈ちゃんが来てくれた。

「マリオ、大野君にやられたんやて。なんで大野君とマリ
オが一緒の組になったんかな。私が先生やつたら離すの
に」

と自分の思いを言ってくれた。

マリオの学校は秋季大会の中地区ブロックの頂点に立っ
た。大阪府のベスト8だ。

キャプテンはマリオと同じMF。キャプテンが相手のM
Fからボールを奪いマリオにパスした。その時観覧席から
「やい、黒んぼ引込め」

と声がした。マリオはどつきとした。瞬間相手のDF
がボールを奪いシュートを決めた。